



12月を迎えて、ホールの絵もクリスマスと冬の雰囲気に変わりました。  
こどもたちの心をすてに発表会とクリスマス一色です。

朝の自由あそびの時間をさえて、時折大太鼓・小太鼓そしてシンバルの大きな音が3階にまで聞こえて来ます。年長見と、スタッフを見つけると自分の長いセリフを演技と一緒に聞いてとらえているようすがあちこちで。



■発表会の主たる練習の場はホールへと変わり、連日こどもたちの熱気が溢れています。

劇のセリフは勿論、歌も楽器もハーモニカもボリュームを上げなくてはなりません。

劇で着る衣装は、今年50人を超えるママ達が作ってくれたものと、これ迄の在庫とおうち家からのものを使っています。  
ご家庭のご協力ありがとうございます。



総練習では、その衣装を着て、メイクをして行きます。  
こどもたち、ワクワク・ドキドキの一日になります。  
総練習の日は、その学年だけの登園で、他の学年はお休みです。お楽しみもお休みです。預かりはあります。(コロナ対策です)

■こどもたちの通園カバンの位置を確認してください。カバンが腰のあたりが最適です。冬の着ぶくれ対策です。

冬期間は着ぶくれします。ベルトが長すぎたりするとバスの中でも教室の中でも苦勞するのはこども本人です。

白ゆめ一口メモ 2

開園当初、園舎は今の園庭にあり、土地はありませんでした。昭和47年から平成13年3月まで、この木造の園舎での園生活でした。  
平成12年度の夏休み、新築の為に園舎を解体しました。その前に園児全員で、壁・床・トイレなどにみんなが落書きをしました。してはいけない事が堂々できたので、当時のこどもたち大よろこびでした。

(心の育ちシリーズ) どこに愛はあるのかい?

昭和の初期、熊本県の某小学校。少年の鉛筆はいつも削られていなかった。徳永先生がその事を尋ねると「ナイフを買って父に言おうが、免強で金銭的に必要ない!」との事。

ある日クラスのひとりを買ったばかりのナイフが無いと徳永先生に言ってきた。はっ!と思った先生は教室に誰もいない時、あの少年の引き出しを覗いた。奥の角、新品のナイフがあった。先生はあけて自転車に乗って同じものを買って持ち主の引き出しの奥にそれを忍ばせた。

その後先生はナイフが無いと訴えた児童に「君はあけて着たかな! どう度見みなさい!」と。ナイフはあった。児童は喜んだ。ナイフを盗んだ少年は潤んだ目を先生を見つめていた。

時が流れ、徳永先生のとと19歳になったあの少年から手紙が届いた。戦地からだった。

「明日、僕は見事に戦死できると思います。その前に先生にお礼を申し上げたい。あの時先生は何と言わないで僕を許してくださいました。死が直前に迫った今そのことを思い出してお礼申し上げます。ありがとうございました。お体を大切にしてください。そしてこれからも僕のような子どもを多くおねがいします」

教育と言うのは、このような先生たちのように深い愛がないと成り立つ仕事ではない。子育て中は子どもに腹を立てることが多い。そんな時「どこに愛はあるのかい?」と囁きを受け止める為に一呼吸置きたい。

目の前で起きた行動を戒めるのではなく、やってしまった相手の見えないうちに寄り添うのである。

愛という字は「心を受け止める」という字に見えるではないか。